



港を残す

Member
Assistant Prof. Takefumi Kurose
D2 Yan Xu
D1 Miki Mochizuki

静岡県静岡市清水区（旧清水市）は、古くから貿易港として栄えた清水港が存在する。その埠頭の1つである日の出地区には、昭和初期に建設された石造倉庫群が立ち並ぶ。

港を彩る

01 プロジェクトのねらい

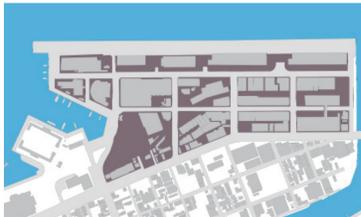
「顕著な歴史性を有さない資源を活かす」には？

清水PJチームでは、他の港湾地区の開発に伴い活気を失った日の出地区を中心に、港の風景を活かしたまちの再生に向けた活動を行っている。2011年度から活動を開始し、清水港の空間資源調査、港周辺の交通機能の改善提案、地元住民と協働したイベントの実施等を行ってきた。

2014年度は、これまでの活動を振り返った上で、多様な主体が意見交換できる場の設定と社会実験「ミナトブンカサイ」を継続的な活動とする仕組みづくりの2つの活動を中心とした。



▲静岡県静岡市清水区周辺



▲清水港日の出地区

2014年度の活動

5月	日中韓まちづくりWS アドバイザー参加
7月	第一回みなと勉強会
9月	第二回みなと勉強会
10月	第三回みなと勉強会 社会実験 「ミナトブンカサイ 2014」

02 昨年度の活動

港の未来にどう繋ぐか？

■みなと勉強会-----清水の過去・現在・未来を考える



▲東大PJの日の出地区の提案図



▲第二回みなと勉強会の様子

港湾企業関係者・地域住民・行政関係者・地元有識者を対象に全3回のワークショップを行った。第一回では、日の出地区の思い出に関して、第二回では「Cityswitch みなとふじ」と協働し、日中韓の大学生による日の出地区の提案について、第三回では有識者による公開講座とまちあるきツアーを行った。

■社会実験「ミナトブンカサイ 2014」

地元住民の日の出地区た港のまちづくりに対する理解を高めるため、2012年度より継続して行っている石造倉庫群でのイベント「ミナトブンカサイ」の運営を地元大学と協力して行った。今年度は、イベントマニュアルを行い、実質的な運営を大きく地域の大学生に任せることで、地域主体のイベントになるように努めた。



▲イベント当日の様子



▲地元大学生が作成したポスター

03 今後の活動

■持続的な市民活動の体制の構築

清水プロジェクトは今年度で5年目を迎える。2012年度より行っているミナトブンカサイも行政・企業・市民団体に支えられながら、地元住民にも徐々に認知されてきた。

しかし、運営・資金調達等の面において不安定なのが現状である。今年度は、地元住民を中心としたマネジメント体制をさらに推進し、継続的な市民活動の仕組みの構築を目指す。

■防潮堤と共存するまちづくりに向けて

日の出地区が抱える課題として、防潮堤の建設と海辺のまちづくりの共存がある。行政の計画と地域住民や企業の意向について状況を追いながら、防災と景観、利用の関係について考えていく。

